

# 農業者への災害関連情報の 効果的な伝達について

～災害時における農業者への  
効果的な情報伝達手法に関する調査を踏まえ～

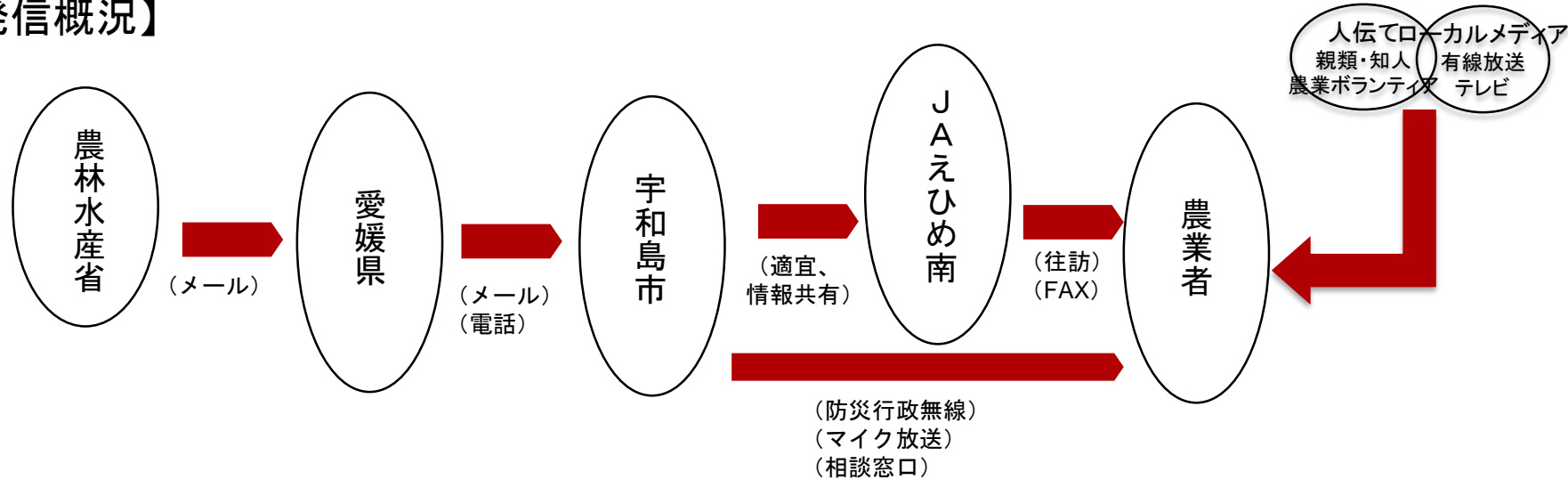
令和2年3月  
大臣官房広報室  
農林水産省

# 1. 調査の概要

## (1) 調査のねらい

平成30年7月豪雨時の愛媛県宇和島市の情報伝達をモデルケースとして、被災農業者のフェーズごと（平時、発災直前、応急対応期、復旧・復興期）に必要な情報や実際に得た情報及びルートを調査し、その傾向や課題を分析・考察することにより、今後の災害時における農業者への効果的な情報発信手法を整理。

### 【情報発信概況】



## (2) 調査概要

### ① インタビュー調査

情報伝達経路の把握のため、①愛媛県、②宇和島市、③農業者に対し、対面でインタビュー調査（農業者に対してはグループインタビュー調査）を実施。

### ② スノーボールサンプリング調査

被災農業者の取得情報及び取得ルートを特定するため、インタビュー調査において言及があった①JAえひめ南指導員、②南予果樹同志会（柑橘生産者団体）、③ボランティア団体、④役職付農家に、スノーボールサンプリング法に基づきインタビューを実施。

### ③ 郵送調査

インタビュー調査及びスノーボールサンプリング調査の結果、得られた被災農業者の取得情報及び取得ルートの仮説を基に、定量的なアンケート調査を実施。（被災した農業従事者1,152名に郵送アンケート調査を行い、556名から有効回答）

①、②に基づき実施した③の郵送調査の結果について、フェーズごとの情報ニーズ・マッチング、情報取得ルートを整理

2. フェーズごとの情報のニーズ・マッチングと情報取得ルートの特徴

情報のニーズ・マッチング

	入手	役立ち度
収入保険や農業共済等農業保険に関する情報	36.7%	32.8%
新規就農者向けの就農支援に関する情報	21.0%	27.4%
気象情報に基づく技術対策の情報(大雨、台風への対策等)	39.7%	50.2%
大雨、台風接近等に伴う事前点検の方法	25.2%	47.9%
営農に関する気象情報	31.8%	54.2%
近隣地域の過去の災害対応の経験談	10.8%	46.7%
その他	2.2%	66.7%
特になし	25.0%	
無回答	7.4%	

情報取得ルート

入手先	%
県の職員や普及員から直接	7.7
市の職員から直接	13.0
JAの職員や指導員から直接	40.4
農業共済の担当者から直接	20.2
近所の人から直接	25.8
宇和島ケーブルテレビ(UCAT)	4.3
NHK、民放放送、データ放送等(UCAT以外のテレビ)	51.6
ラジオ(全国放送、防災ラジオ等)	22.3
新聞(全国紙、農業新聞等の専門紙等)	23.9
防災行政無線やマイク放送等の町内放送	39.9
市の広報紙(広報うわじま)	9.6
JAの広報紙(広報みなみかぜ)	12.0
JAの指導員から届いたFAX	36.7
JAから届いたプリント	15.2
近所の回覧板	2.1
インターネットやホームページ	17.0
アプリやSNS(Yahoo! 天気・災害、フェイスブック、ツイッター等)	12.8
その他	0.5
無回答	2.4

発災直前

	入手	役立ち度
気象情報に基づく技術対策の情報(大雨、台風への対策等)	21.8	47.1%
大雨、台風接近等に伴う事前点検の方法	10.8	45.0%
災害発生後の応急対策の方法	12.1	55.2%
収入保険や農業共済等農業保険に関する情報	8.3	45.7%
台風の進路等、気象に関する情報	45.5	39.9%
近隣地域の過去の災害対応の経験談	5.6	45.2%
その他	0.9	40.0%
この時期に入手した情報はなかった	31.7	
無回答	9.7	

応急対応期  
(発災1ヶ月以内)

情報	入手	役立ち度
査定前着工制度に関する情報	18.5	52.4%
被害を受けた農作物への事後対策の仕方	25.4	55.3%
被害を受けた農業機械の取扱い方法	38.5	56.5%
防除用の取水場の情報	24.5	52.2%
積立金の納付延長措置の情報	1.8	40.0%
過去の災害対応の経験談	2.3	61.5%
その他	2	
この時期に入手した情報はなかった	23.7	
無回答	15.6	

復旧・復興期

情報	入手	役立ち度
共済金・保険金の支払いに関する情報	16.9	46.8%
農道復旧の補助事業	37.4	46.2%
農地の土砂除け等、農地の復旧に関する補助事業	49.8	56.7%
農業用施設、農機具の復旧、再取得の補助事業	51.4	67.5%
南予用水の園内配管等、共同施設復旧のための補助事業	25.7	49.7%
追加防除や委託防除等、防除関連の情報	11.3	34.9%
モノレールの復旧に関する情報	45.5	55.3%
運搬用トラックの再購入やレンタルに関する情報	16.7	34.4%
農業ボランティア等、人的支援の情報	29.7	43.0%
その他	1.6	77.8%
この時期に入手した情報はなかった	15.1	
無回答	8.1	

得られた知見

- 入手できた技術対策や気象情報に加え、事前点検の方法や過去経験談にニーズ。
  - テレビ、町内放送、JA経由が多い。

⇒ 現行の情報取得ルートの維持・強化を進めつつ、ニーズの高い情報の情報量を増やすことを進めるべき。
- 入手できる情報が少なくなる中、災害発生後の応急対策の方法をはじめ、様々な情報にニーズ。
  - ルートはテレビと町内放送しかなく、農業者にとっては情報が不足している状況。

⇒ 平時以上に気象情報とセットにした情報、特に、災害発生後の応急対策の情報をアプリなどを通じて発信してはどうか。

- 発災直後にすべきこと全般にニーズがある。
  - ただし、市、JA、近所の人から人伝で直接情報を得るルートの割合が多く、得られた情報も偏りが見られる。
- ⇒ 発災直後に伝えるべき情報を精査した上で、農業者に直接接する者(市、JA職員等)に持たせられる一枚紙のチラシを整理。

- 農地、施設、農機具の復旧に関する情報にニーズがあり、入手もできている。
- ルートは、市、JAからの人伝てが中心。
- ⇒ 災害発生時期にもよるが、復旧に関する情報と申請手続きの円滑化が重要。
- 将来的には、手続き迅速化のための電子申請システムの導入やアプリの改良が必要か。

### 3. フェーズごとの情報授受と課題：平時

農業者が入手した農業関連情報	情報入手ルート
<ul style="list-style-type: none"><li>・収入保険など保険に関する情報</li><li>・気象情報に基づく技術対策の情報</li><li>・営農に関する気象情報</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・テレビ</li><li>・マイク放送等の町内放送</li><li>・JAの職員や技術指導員の往訪</li><li>・JAからのFAX</li></ul>

#### (1) 情報環境

【発信内容】

- ・ 技術対策の情報は、農業者にとって役に立つものであった。

【情報伝達ルート】

- ・ 情報は、宇和島市やJAえひめ南が、本省の資料を基に独自に作成して、往訪やFAX、町内放送で伝わっている。
- ・ 本省のホームページは、農業者に直接活用されていない。

#### (2) 情報発信における課題

【発信内容】

- ・ 過去の災害対応の経験談へのニーズが高く、情報量を増やすべき。

【情報伝達ルート】

- ・ 現行の伝達ルートの維持・強化。

## 4. フェーズごとの情報授受と課題：発災直前

農業者が入手した情報	情報入手ルート
・台風等気象の情報	・テレビ、防災行政無線
入手しておけば良かった情報	
・災害発生後の応急対策の方法	

### (1) 情報環境

#### 【発信内容】

- ・気象情報以外の情報が入手困難になる中、営農に関する情報全般にニーズが高まる。

#### 【情報伝達ルート】

- ・気象情報を発信する媒体（テレビ、防災行政無線）に集中している。

### (2) 情報発信における課題

#### 【発信内容】

- ・応急対策情報等営農に関する情報と気象情報とをセットアップ。

#### 【情報伝達ルート】

- ・テレビ、防災行政無線に加え、アプリなどの新規メディアの開拓。

5. フェーズごとの情報授受と課題：応急対応期

農業者が入手した情報	情報入手ルート
<ul style="list-style-type: none"><li>・被害を受けた農業機械の取扱い方法</li><li>・被害を受けた農作物の事後対策の仕方</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・JAの職員や指導員</li><li>・近所の人（ボランティア団体含む）</li></ul>
入手しておけば良かった情報	
<ul style="list-style-type: none"><li>・補助事業等の費用や補助に関する情報</li><li>・農業ボランティア等人的支援に関する情報</li></ul>	

(1) 情報環境

【発信内容】

- ・ 応急対策情報全般にニーズ

【情報伝達ルート】

- ・ 市は農業以外の被災対応のために十分機能せず、個別連絡が可能な手段が唯一の情報伝達ルートとなった。

(2) 情報発信における課題

【発信内容】

- ・ 補助事業や農作業支援を適時に申請・受益できるように、農業者がすべきことをまとめた情報、又は農業者に代わって実施する者が必要とする情報。
- ・ 情報の内容に偏りが見られるので、伝えるべき情報を精査した一枚紙を作成。

【情報伝達ルート】

- ・ 市町村が機能しない時に個別連絡可能なルート（農業ボランティア）の開拓。

6. フェーズごとの情報授受と課題：復旧・復興期

農業者が入手する情報	情報入手ルート
・農地、農業用施設、農機具の復旧や再取得のための補助事業に関する情報	・JAの職員や指導員から直接 ・市の職員から直接 ・近所の人から直接
入手しておけば良かった情報	
・農地、農業用施設、農機具の復旧のための補助事業に関する情報	

(1) 情報環境

【発信内容】

- ・農地、施設、農機具の復旧に関する情報にニーズ。

【情報伝達ルート】

- ・入手は、市、JAからの人伝てが中心。作物によっては、得られる情報に偏り。

(2) 情報発信における課題

【発信内容】

- ・申請手続き等について、事前に準備しておくべきものと申請時に用意すればいいものといった形で、フェーズごとに収集しておくべき情報の整理。

【情報伝達ルート】

- ・農業者向けの情報発信に加え、手続きを実質的に代行する市やJAの職員らに情報を持たせるルートの開発。

## 情報のニーズ・マッチング

	入手	役立ち度
気象情報に基づく技術対策の 情報(大雨、台風への対策等)	21.8	47.1%
大雨、台風接近等に伴う事前 点検の方法	10.8	45.0%
災害発生後の応急対策の方法	12.1	55.2%
収入保険や農業共済等農業 保険に関する情報	8.3	45.7%
台風の進路等、気象に関する 情報	45.5	39.9%
近隣地域の過去の災害対応 の経験談	5.6	45.2%
その他	0.9	40.0%
この時期に入手した情報は なかった	31.7	
無回答	9.7	

## 情報取得ルート

入手先	%
県の職員や普及員から直接	4.3
市の職員から直接	7.4
JAの職員や指導員から直接	18.1
農業共済の担当者から直接	6.1
近所の人から直接	19.3
宇和島ケーブルテレビ(UCAT)	4.0
NHK、民放放送、データ放送等(UCAT以外の テレビ)	68.7
ラジオ(全国放送、防災ラジオ等)	26.4
新聞(全国紙、農業新聞等の専門紙等)	19.9
防災行政無線やマイク放送等の町内放送	46.6
市の広報紙(広報うわじま)	5.8
JAの広報紙(広報みなみかぜ)	6.1
JAの指導員から届いたFAX	23.0
JAから届いたプリント	6.7
近所の回覧板	3.4
インターネットやホームページ	20.6
アプリやSNS(Yahoo! 天気・災害、フェイス ブック、ツイッター等)	12.6
その他	1.5
無回答	2.1

### 得られた知見

- 入手できる情報が少なくなる中、災害発生後の応急対策の方法をはじめ、様々な情報にニーズ。
  - ルートはテレビと町内放送しかなく、農業者にとっては情報が不足している状況。
- ⇒ 平時以上に気象情報とセットにした情報、特に、災害発生後の応急対策の情報をアプリなどを通じて発信してはどうか。



情報のニーズ・マッチング

情報	入手	役立ち度
査定前着工制度に関する情報	18.5	52.4%
被害を受けた農作物への事後対策の仕方	25.4	55.3%
被害を受けた農業機械の取扱い方法	38.5	56.5%
防除用の取水場の情報	24.5	52.2%
積立金の納付延長措置の情報	1.8	40.0%
過去の災害対応の経験談	2.3	61.5%
その他	2	
この時期に入手した情報はなかった	23.7	
無回答	15.6	

情報取得ルート

入手先	%
県の職員や普及員から直接	11.3
市の職員から直接	31.2
JAの職員や指導員から直接	54.3
農業共済の担当者から直接	5
近所の人から直接	37.7
宇和島ケーブルテレビ（UCAT）	1.2
NHK、民放放送、データ放送等（UCAT以外のテレビ）	11.3
ラジオ（全国放送、防災ラジオ等）	5.6
新聞（全国紙、農業新聞等の専門紙等）	7.1
防災行政無線やマイク放送等の町内放送	30.3
市の広報紙（広報うわじま）	11.3
JAの広報紙（広報みなみかぜ）	7.7
JAの指導員から届いたFAX	40.1
JAから届いたプリント	22.3
近所の回覧板	2.1
インターネットやホームページ	4.5
アプリやSNS（Yahoo！天気・災害、フェイスブック、ツイッター等）	0.9
その他	2.1
無回答	1.8

得られた知見

- 発災直後にすべきこと全般にニーズがある。
  - ただし、市、JA、近所の人から人伝で直接情報を得るルートの割合が多く、得られた情報も偏りが見られる。
- ⇒発災直後に伝えるべき情報を精査した上で、農業者に直接接する者（市、JA職員等）に持たせられる一枚紙のチラシを整理。